

市内3会場で成人式が開催

1月8日(日)、3つの会場で成人式が行われ、新成人1250人の門出をお祝いしました。



【佐野会場】文化会館



【田沼会場】(田沼中央公民館)



【葛生会場】葛生あくとプラザ



出初め式が開催されました

1月15日(日)、市役所南仮庁舎北側の県道桐生・岩舟線で出初め式が行われました。



出初め式では、保育園や幼稚園の子どもたちが「火の用心」を元気よく呼び掛け、佐野とび職組合の皆さんは見事な「はしご乗り」を披露しました。

また、消防団員が青藍泰斗高等学校吹奏楽部の演奏のもとに勇ましく行進。消防車60台の壮大なパレードとともに、沿道の皆さんに頼もしい姿を披露しました。



寒さで、火を使う機会が増え、空気が乾燥するこの季節、火事の危険性が高まります。火のもとには十分にお気を付けてください。

県南五市対抗駅伝が開催

1月9日(日)、足利市・小山市・真岡市・栃木市・佐野市による「第62回県南五市対抗親善駅伝競走大会」が開催されました。

今年は足利市～小山市間の10区間45.9キロを、中学生から一般までの男女10人で構成された各市の代表チームが競いあい、佐野市では佐野Aチームが3位となりました。また個人成績では、入澤良太選手(北中3年)、安藤優香選手(北中3年)の2人が区間賞を獲得しました。

なお、今大会の総合順位は、以下のとおりです。

- 1位・小山市
- 2位・真岡市
- 3位・佐野市
- 4位・足利市
- 5位・栃木市





「からまる」と「からちゃん」

昨年から佐野ブランドキャラクター「さのまる」が活躍中ですが、唐沢山城跡をPRする「からまる」と「からちゃん」をご存知ですか。

「からまる」は、お城をイメージし、兜をかぶった男の子です。「からちゃん」は唐沢山の松をイメージした髪飾りを付けた女の子です。

唐沢山城跡は唐沢山神社がある本丸を中心に広がる貴重な歴史遺産です。一日も早い国史跡の指定を目指し、「からまる」と「からちゃん」がPRに一役買うことを期待したいです。

唐沢山の魅力に触れてみては…

秋には見事な紅葉をみせるなど四季折々の自然に触れることができ、さまざまな角度から市内を眺望することができる唐沢山。運が良ければはるか彼方の富士山や、東京スカイツリーまで望めます。

そして城跡が戦国時代へとタイムスリップさせてくれそうな唐沢山。そんな魅力たっぷりの唐沢山城跡を訪れてみてはいかがでしょうか。キャラクターの二人が出迎えてくれますよ。(市民記者 中里聖子)



2013(平成25)年9月、市の偉人、田中正造翁が亡くなられて100年を迎えます。

「田中正造旧宅説明ボランティアの会」では、次世代を担う子どもたちに、自然や人間の生活を守るため生涯を捧げた正造翁の偉業や思いを伝えたいと、紙芝居を製作し、旗川小などで上演しています。

上演された紙芝居は表紙を含めて8枚。少年時代のエピソードに始まり、政治家として議会で活躍する正造、足尾鉍毒の被害状況、天皇直訴、遊水地に没する谷中村問題など、鉍毒被害民の救済に東奔西走した正造の生涯が描かれていました。

紙芝居に見入った児童たちからは、「今でも、渡良瀬川に鉍毒が流されているの」、「鉍毒の被害が、一番大きかった時期はいつですか」など次々に質問が飛び出し、熱心に勉強していました。

産業の振興と環境保全のバランスの再構築が必要とされている昨今、生前、自らの命をかけて訴えた正造翁が再注目、再評価されています。

市でも没後100年を機に正造翁の功績を顕彰するため、着々と準備を進めています。また、郷土博物館では常時、正造翁の資料を展示しています。佐野市の偉人、田中正造翁の生涯をかけた訴えにぜひ耳を傾けてみてください。

**寒さが身に染みる
雪と風の方言**

北風の吹く晴れた冬の寒い日に、降雪地から風に送られて飛来する粉雪を「フッコシ」といいます。これは「吹き越し」が変化したものです。ちらちらと舞い散る花のようにも見えることから、共通語では風花(かぜはな)といいますが、「こんな晴れてんのに、風が横なぐりに吹いて、やけに寒いと思ったら、やっぱりフッコシ(風花)になったね」

何もさえぎるものがなく、風が通り抜けること、または、その場所をフキツアラシといえます。これは「吹き曝し」が変化したものです。四季を通して、山おろしや北風が強くとく冬に使われることばです。

「フキツアラシ」中を帽子もかぶるネデ歩いて来たモンだから…、いやー、今日の風はマツサカ(とてもチミテー(冷たい)ね)

真冬の風は、肌身に染み通るほどの冷たさを感じるが、佐野方言、特に旧安蘇郡では、この冷たい風をミキリカゼといっていました。

耳がちぎれ落ちるほど寒いということ、主として明治・大正生まれの人たちが多く使っていました。

「このミキリカゼ(冷たい風)ジャー、外へも出らんネー(出られない)ねー。ナンセ(何しろ)風はツエー(強い)し、耳がチョンギラレル(切られる)ほどチミテカン(冷たいから)ねー」

市民記者 森下喜一